特別寄稿

田口先生との思い出
—最後の卒研生を代表して—

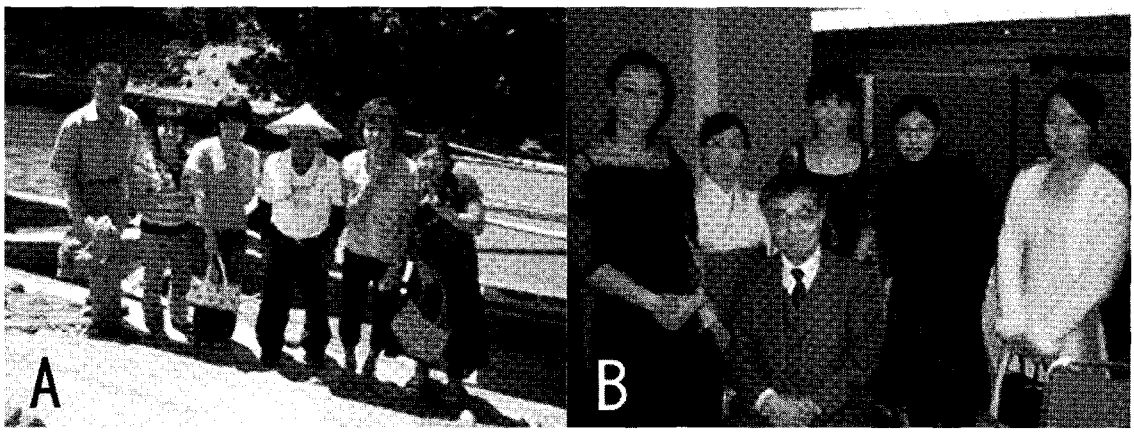
増田　千明※

私は，平成17年度3月に本学の家政学部食物栄養学科を卒業しました。食物栄養学科では，4回生で希望した担当教官の下で，1年間卒業研究を行います。私は，田口先生を志望しました。学生に対してとても親身になって相談にのってくださること，気さくな感じで気軽に話しかけてくださるということが主な理由でした。研究室には学生が8名おりました。5名は田口先生の下で卒業研究を行い，残りは他大学で研究を行いました。私は，田口先生が共同研究をなさっている大学の先生のもとで研究をさせてもらうことになりました。そのため，京女の研究室には，週1回のゼミの日にしか行くことが出来ませんでした。意外かもしれませんが，普段はやさしい先生ですが，ゼミの時は厳しく，教員の顔から研究者の顔になります。しかし，ゼミが終わるといつものやさしい先生に戻って，学外へ昼食を食べに連れていってもらいました。また，先生は私たちにご自身の学生時代ことや留学中のことなどいろいろなお話を聞かせてくれました。先生のお話の中で，特に印象的だったのは，「正直で素直な人になりなさい。」というお言葉でした。一見，当たり前のことですが，知らない間に忘れていたことに気づきました。

夏のゼミ合宿は滋賀県の野洲にあるユースホステルで行いました。合宿の最終日，先生が私たちを近江八幡にある水郷めぐりに連れて行ってくれました。その日は天気もよく，和船に揺られながら，のんびりとした時間を過ごすことが出来ました（図A）。

1年間はあっという間に過ぎ，ついに私たちは卒業式を迎えました。厳かな雰囲気の中，無事に卒業式を終えることができました。式の後，卒業記念パーティーがありました（図B）。研究室の仲間が集う最後の日，喜ばしい席なのに複雑な心境だったのを覚えています。

最後になりましたが，本当に長い間お疲れ様でした。これからの，私たち卒業生の活躍に期待して頂けると嬉しく思います。



※京都女子大学大学院家政学研究科